

島根原子力発電所 2号炉 高経年化技術評価 第32回審査会合（2023.11.2）における指摘事項に対する回答一覧表

No.	審査会合日	事象分類	指摘事項	回答内容	図書／ページ番号
1	2023年11月2日 (第32回審査会合)	コンクリートおよび鉄骨 構造物	アルカリ骨材反応の潜在性に関する内容を補足説明資料に反映すること（別紙14には判定基準等の記載がないため、記載の拡充の観点）。	補足説明資料 別紙14に、促進膨張試験（アルカリ溶液浸漬法）の適用規準、対象構造物で使用している主なコンクリート材料一覧およびASR進行段階の判定基準を追記した。	補足説明資料（コンクリートおよび鉄骨構造物） P別紙14-3、5
2	2023年11月2日 (第32回審査会合)	絶縁特性低下	長期施設管理方針としている難燃P Nケーブルの取替または再評価の実施状況について、対応方針と進捗状況を補足説明資料に反映すること。	長期施設管理方針としている難燃P Nケーブルの実施状況について補足説明資料に反映した（補正時に高経年化技術評価書（別冊）に反映する）。	補足説明資料（電気計装設備の絶縁特性低下） P別紙8-31
3	2023年11月2日 (第32回審査会合)	耐震安全性評価	原子炉格納容器貫通部ベローズの疲労評価について、同系統貫通部（例えば、主蒸気系配管の原子炉格納容器貫通部としてA～Dの4箇所ある）のそれぞれの評価結果に差異があるか評価方法を踏まえ確認すること。 また、同系統貫通部のそれぞれの疲れ累積係数に差異がある場合は、通常運転による疲れ累積係数と地震による疲れ累積係数のそれぞれの値が明確となるよう評価書および補足説明資料に反映すること。	疲労累積係数の算出に用いる配管貫通部ベローズの発生応力を算出するための地震伸縮量は、R/B-PCV連成モデルの質点の変位量（x,y,z）を並べ、各方向の最大値より算出した地震時伸縮量を設定することで全ての貫通部の伸縮量を包絡する設定値としている。 このため、同系統貫通部の評価結果に差異はない。 同系統貫通部で評価結果の差異がないことを技術評価書に追記した（補正時に高経年化技術評価書（別冊）に反映する）。 なお、上記のとおり同系統貫通部で評価結果に差異がないため、補足説明資料への反映は行っていない。	—
4	2023年11月2日 (第32回審査会合)	耐震安全性評価	配管の疲労評価について、通常環境による疲れ累積係数の最大値、地震時の疲れ累積係数の最大値を足し合わせて評価しているのであれば、その旨を評価書に追記すること。	運転実績回数に基づく疲れ累積係数と地震動による疲れ累積係数の最大評価点はそれぞれ異なるが、保守的にそれぞれの最大値を足し合わせている旨を技術評価書に追記した（補正時に高経年化技術評価書（別冊）に反映する）。	—
5	2023年11月2日 (第32回審査会合)	耐震安全性評価、 耐津波安全性評価	制御棒挿入性評価および取水槽水位計の基礎ボルトの評価について、評価書へ反映すること。	制御棒挿入性評価および取水槽水位計の基礎ボルトの評価について、技術評価書に追記した（補正時に高経年化技術評価書（別冊）に反映する）。	—
					—